第１章　調査の概要

１．調査の目的

本調査は、平成 22 年度の意識調査以降、男女共同参画社会に向けた取組が進む中、市民の意識と実態がどのように変化してきているかを把握するとともに、28 年度に行う第２次鹿児島市男女共同参画計画の見直しに向けて目標指標の達成状況等を把握し、今後の施策を検討するための基礎資料とするものである。

２．調査方法

（１）　調査対象者　　鹿児島市在住の 20 歳以上の男女 3,000 人
（２）　抽出方法　　鹿児島市住民基本台帳から無作為抽出
（３）　調査期間　　平成 27 年９月４日（金）～平成 27 年９月 25 日（金）
（４）　調査方法　　調査票による本人記入方式（郵送配布・郵送回収による郵送調査法）

３．回収結果

調査名	配布数	有効回答数	有効回収率
男女共同参画に関する市民意識調査	3,000 人	1,452 人	48.4%

４．集計上の留意点

（１）集計結果は百分率で算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、百分率の合計が 100%にならない場合がある
（２）複数回答の場合は、有効回答者実数より高くなっている場合がある。
（３）集計表中に、「年代」「性別」等の区分けをしているが、各区分に未記入データが含まれているため各区分の小計と、合計の数値が異なる場合がある。
（４）有意差検定には「χ2 乗検定」を用い、有意水準を５％（ｐ値が 0.05 未満なら有意差あり）とする。
（５）分析コメントにおいては、検定により有意差が検出された項目に対してのみ「高い」「低い」「差がある」といった表現を用いている。

５．統計上の用語について

母集団

調査対象となる数値、属性等の源泉となる集合全体のこと。

母数

母集団の分布を表現する数値のこと。

有意

「確率的に偶然とは考えにくく、意味があると考えられる」こと。

帰無仮設

検定の結果最終的に棄却されるべきもので、「母数Ａと母数Ｂの間には差がない」という形の仮説。

ｐ値

帰無仮説の下で実際にデータから計算された統計量よりも極端な統計量が観測される確率。

有意水準

どの程度の正確さをもって帰無仮説を棄却するかを表す定数。有意水準５％で有意という場合は、「実際には偶然に過ぎないのに、誤って『意味がある』と判断している」可能性が最大で５％であるということ。

有意差

帰無仮説を「２つの母数に差がない」という形にした場合には、帰無仮説が棄却されることで「２つの母数の間には有意差がある」という結論が導かれる。

期待値（期待度数）

帰無仮説「２つの母数に差がない」が成立した時に期待される値（度数）

実測値（観測度数）

期待値（期待度数）に対し、実際に観測された値（度数）

χ2 乗検定（カイ二乗検定）

期待値（期待度数）と実測値（観測度数）との差が誤差の範囲であるかを、χ2 乗値を用いて解析する検定手法。

χ2 乗値（カイ二乗値）

期待値（期待度数）と実測値（観測度数）との差を表す指標。

$$\chi 2\ 乗値 = \frac{(実測値 - 期待値)^2}{期待値}$$

【参考】 本報告書で結果を引用した過去の調査

◆ 平成 22 年度 「男女共同参画に関する市民意識調査」（鹿児島市）
（20 歳以上の男女 3,000 人、有効回答数 1,395 人）
※ 本文中では、「前回調査」と表記している

◆ 平成 24 年度 「男女共同参画社会に関する世論調査」（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人、有効回答数 3,033 人）
※ 本文中では、「内閣府調査」と表記している

◆ 平成 26 年度 「女性の活躍推進に関する世論調査」（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人、有効回答数 3,037 人）
※ 本文中では、「内閣府女性活躍推進調査」と表記している

◆ 平成 26 年度 「男女間における暴力に関する調査」（内閣府）
（20 歳以上の男女 5,000 人、有効回答数 3,544 人）
※ 本文中では、「内閣府ＤＶ調査」と表記している

◇ 比較に使用した図表は、集計データを基に改めて作成しているため、前回調査及び内閣府調査時に公表されたものと異なる場合がある。